

火焰型土器と、その後の土器

●馬高式から栃倉式へ、
火炎土器の変遷をさぐる

開館15周年を迎える秋
に開催される特別展では、
縄文中期の火炎土器の変遷
をとりあげます。

約5千年前、信濃川流域
を中心に広がった火炎土器
は、火焰型・王冠型土器な
ど立体的な突起や文様をも
つ「馬高式土器」から、大
振りの装飾的な把手ととも
に矢羽状の沈線や渦巻きが
つながる文様を施す「栃倉
式土器」に変遷していきま
す。その様相を、長岡市内
や県内各地の出土資料から
紹介します。

展覧会では、長岡市教育
委員会が近年発掘調査を行
った転堂（ころびどう）遺
跡の出土資料も初公開！関
連講座では、長岡市の栃倉
式土器関連の研究者、転堂
遺跡の発掘調査担当者よ
り、転堂遺跡の調査の成果
を中心に話しいただきま
す。ぜひご参加ください。

特別展関連講座

『馬高式土器から栃倉式土器へー転堂遺跡にみる様相ー』

◇日 時 10月26日(土) 午後1時30分～3時30分

◇講 師 新田康則さん、山賀和也さん

(両名とも長岡市立科学博物館)

◇参加料 無料 ※当日の展示室観覧料も無料

◇定 員 50名【先着、小学生（保護者同伴）以上】

◆申込み 9月10日(火)～10月23日(水)

特別展『馬高式土器から栃倉式土器へ』

◇期 間 9月21日(土)～11月4日(月休)
午前9時～午後5時

※入館は午後4時30分まで

◇休館日 月曜（祝日の場合は次の平日）

◇観覧料 常設展示室観覧料のみ

(一般200円、高校生以下無料、
20名以上の団体150円)

見る目のあるあなたに



●開館15周年記念！

ニセモノを見破って
火焰型土器をゲット？

馬高縄文館より、15年
分の感謝を込めて、火焰
型土器作品が当たるクイ
ズイベントを開催！
展示室内にある3つの
火焰型土器から、本物の
出土品を見抜いてくださ
い。正解者のうち、応募
された方から抽選で3名
の方にほぼ実寸大の火焰
型土器作品をプレゼント
します。あなたの眼力を
試してみましょう！

『正解はどれ!?ホンモノ火焰型土器』

◇期間 9月21日(土)～11月4日(月休) 午前9時～午後5時
※受付は午後4時30分まで

◇料金 展示室観覧料のみ（一般200円、高校生以下無料）

◇内容 展示室内の3つの火焰型土器から本物の出土品を当てるクイズ。正解者のうち、応募者から抽選で3名に火焰型土器を模したほぼ実寸大の作品（右写真参照）を贈呈
※作品は直接受け渡ししか着払いの郵送となります

◆申込 当日受付（馬高縄文館受付まで）

この土器(作品)、
さしあげます！



つくっても

●ドキドキ土器、
マイ土器をつくらう！

形・飾り・もよう…展示室の土器から縄文人のこだわりを学びつつ、縄文人を超える素敵な「自分的土器」をつくってみてください。秋の土器づくりは、藤橋歴史の広場でも開催します。

土器って おもしろい



●手元から縄文気分
ステキな文様ネイル

火炎土器を持ち歩くのは難しくても、ネイルならいつでも手元に火炎土器が！好きな文様のシールをつくって爪にペタリ、マニキュアやネイルパーツで華やかに飾れます。おしゃれに縄文をたのしみましょう。

みにつけても



『縄文土器をつくらう！』

①馬高縄文館

◇開催日 9月23日(月休)、定員 20名

②藤橋歴史の広場

◇開催日 9月29日(日)、定員 10名

①②とも

◇時 間 午前10時～午後3時

◇対 象 小学生(保護者同伴)以上

◇参加料 無料 ※当日の展示室観覧料も無料

◇持ち物 汚れてもよいタオル・服装、
昼食、飲み物

◆申し込み期間 ※先着順で受付

①9月10日(火)～20日(金)

②9月10日(火)～26日(木)

※土器焼き体験(雨天延期)

10月19日(土) 午前10時～午後3時

『みにつける火炎土器/火炎土器ネイル』

◇日 時 10月6日(日)

①午前10時から正午

②午後1時から3時

◇定 員 各10名(先着)

【小学生(保護者同伴)以上】

◇参加料 無料

※当日の展示室観覧料も無料

◇持ち物 マニキュア、トップコート、
爪切り、はさみ、ピンセット、
(必要なら)ネイルチップ・
ネイルパーツ

◆申し込み期間

9月10日(火)～10月3日(木)

◆◆◆ トピック ◆◆◆
転堂遺跡とその地域の人びと

転堂遺跡は馬高遺跡からほど近い長岡市上除町の八幡神社付近に位置しています。古くから遺跡の存在が知られ、隣の関原町にすむ火焔土器の発見で有名な近藤家も戦前に踏査を行い、火焔型土器の破片を含む多数の資料を収集しました。

同じく関原町出身の中村孝三郎が著した『先史時代と長岡の遺跡』には、「時折り境内東側の崖の草むらから石斧等が発見されている。」とあり、資料所蔵先として長岡市立科学博物館の他、近隣に住む数名の名があげられています。

長らく発掘調査はされていませんでしたが、地元の人びとには土器や石器が見つかる場所として親しまれていた遺跡のようです。その転堂遺跡で発掘調査が行われたら…なにが出土したのでしょうか。

気になる方はぜひ特別展や関連講座へお越しください。

●参考・引用文献

『長岡市史 資料編1 考古』長岡市一九九二、中村孝三郎『先史時代と長岡の遺跡』長岡市立科学博物館一九六六